

学校教育関係の皆様へ

2010年2月25日
東京大学大学院教育学研究科
附属学校教育高度化センター

COMPASS ワークショップのお知らせ

同封いたしましたポスターにございますように、3月28日(日)13:00~17:00に、東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化センター主催のワークショップ「学力・学習力診断テスト COMPASS とは」を開催いたします。

COMPASS (componential assessment の略) は、本研究科市川伸一研究室を中心に、この数年間かけて開発・実施してきた算数・数学のアセスメントテストで、小学校5年生版(出題範囲は小4まで)から、中学校2年生版(出題範囲は中1まで)が作成されています。

COMPASS は、認知心理学における問題解決のモデルに沿って、解決プロセスで必要と思われる学力の構成要素(コンポーネント)を診断する問題から成っています。これまで当研究室で行ってきた個別学習相談(認知カウンセリング)において、つまづきが見られる点を多くとりあげています。また、日常的な学習行動についても、質問紙で診断することができます。

文部科学省の全国学力調査をはじめ、近年の学力調査では、日本の児童・生徒は、「基礎基本は身につけているが、活用力が弱い」と言われています。しかし、COMPASS を実施してみると、これまで見過ごされてきたような基礎基本の危うさが浮き彫りになります。それは、COMPASS が数学の領域横断的なコンポーネントを測定するために、個別の課題を用い、それぞれに制限時間をつけて実施するという方式をとっているからです。

たとえば、「基本的な用語が理解できていない」「図表を使って考えようとしていない」「小学校レベルの定型的な文章題でも解けない中学生が多い」「論理的判断を要する問題ができる生徒がほとんどいない」「計算上の工夫をする習慣がない」といったことが、これまでに明らかにされています。算数・数学教育で、基礎基本と見なされる学力にあたるものがけっして身につけているとはいえないのです。

さらに、こうしたコンポーネントを育成するための「学習法講座」をこれまでいくつかの学校で試行してきました。今回のワークショップは、COMPASS を実施することでどのようなことが明らかになり、学習改善、授業改善にどう活用できるのかを体験的に理解していただくことを目的としています。

参加費は無料ですが、定員の80名を越えた場合、事前に申し込みを締め切らせていただきます。お早めにお申し込みいただければ幸いです。周りの方々にもどうぞお知らせください。